

川越市における医療・介護連携に関する意見交換会について

地域包括ケア病棟については今後、必要性が高まる一方、介護老人保健施設等との関係性については、現状や連携状況等を確認・共有したうえで、病床の整備を進める必要があることから、相互に意見交換会を開催。

【開催概要】

- 日 時：令和元年5月9日（木）18時30分～20時30分
- 場 所：川越市保健所 大会議室
- 参加者：川越市医師会、川越市内の高度急性期病院、回復期機能病床（地域包括ケア、回復期リハ、療養病床）を有する病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、在宅医療連携拠点など

【主な意見】

- 高度急性期病院から
 - ・皮下血腫（たんこぶ）程度でも、施設の協定医療機関等で受入れていただかず、当院に救急搬送されてしまうケースがある。

- 地域包括ケア病床を有する病院から
 - ・急性期医療を提供していない病院では、中等症以上の救急に対応できず、地域包括ケア病棟に直接受け入れることは難しい。
 - ・地域包括ケア病床は、在宅復帰率の問題があり、長期の入院が想定される患者を受け入れにくい。こうした場合、一旦は一般病棟で受け入れるという運用を行っている。
 - ・現在のところ川越市内の介護老人保健施設は、ほぼ満床の状況にあるが、地域包括ケア病床が今後大幅に増えてくると、施設の利用率の低下が懸念される。

- 介護老人保健施設等から
 - ・特に夜間に施設利用者が急変した際の受け入れ先病院の決定まで時間を要している。待機している時間が長く、夜間一人に対応している職員の不安が強く、離職にも繋がっている。
 - ・協力医療機関等と普段から連携を図っているが、緊急時の受け入れ、救急対応の際、病院が決まらず、受入先が決まるまで長時間かかることもある。

- 地域包括ケア病床の役割は、地域によって異なる。
- 現状の多くの地域包括ケア病床は、必ずしも地域包括ケアシステムの構築に十分な役割が果たせていない。
- 地域包括ケア病床の整備にあたっては、引き続き地域（市単位や郡市医師会単位など）で、望ましい役割について関係者間で協議を行っていくことが必要。